

愛知県震度観測・調査報告書－第38報－の概要

1 調査の概要と目的

この調査は、地震動の伝わり方や地域特性を明らかにするため、県内全市町村に設置している計測震度計による震度情報ネットワークの震度観測データ等を活用して、平成30年1月～12月に発生した地震と震度に関する情報をまとめるもので、防災対策の基礎資料、県民の地震に対する理解を深めるために活用されることを目的として報告書を作成している。昭和56年より1冊／年で発行しており、本書で38冊目となる。

2 愛知県震度観測・調査報告書－第38報－の概要

(1) トピックス

ア 南海トラフ沿いの異常な現象への防災対応とは

中央防災会議防災対策実行会議のもとに設置された「南海トラフ沿いの異常な現象への防災対応検討ワーキンググループ」が発表した報告に至る経緯及び異常な現象に対する対応方針について解説し、今後の展望等について述べている。

イ 電磁波で地下を探る

地下構造調査法の一つである電磁探査について解説し、その実例を用いて、どのように地震解明に役立つのか述べている。

(2) 震度観測資料

ア 愛知県における地震

平成30年に、県内のいずれかの市町村で震度1以上が観測された地震の発生は27回であり、震度4以上が観測された地震の発生は2回であった。

イ 国内の主要な地震

平成30年に、国内で被害を伴った地震の発生は4回であった。

ウ 世界の地震

平成30年に、世界で人的被害を伴った地震の発生は10回であり、死者が100名を超える海外の地震の発生は2回であった。

3 調査研究成果の活用

調査報告書は、防災会議に報告するとともに、防災関係機関、市町村に配付し、地震防災対策の基礎資料として活用する。

また、県民が自由に閲覧できるように公立図書館、県民相談・情報センター等に配付し、地震についての理解を深めてもらう。